

東京表現高等学院 MIICA
平成29年度 自己点検・評価

平成30年6月20日

東京表現高等学院 MIICA 平成29年度自己点検・評価

本校は「仕掛ける人に、なれ」をコンセプトに、時代を創り、新しい価値を生み出していく人材＝「VISION MAKER」を育成することを目的として教育を行なっています。

*MIICAで育む5つの力

- 01 目標を立てる力 将来なりたい自分をかなえるために、今の自分が達成すべき目標を適切に立てる力
- 02 自分自身を知る力 いろいろな人との人間関係の中で、自分の実力や価値観などを客観的に見る力
- 03 価値を生み出す力 まわりの人たちと協力しながら知識や経験を組み合わせ、新たな価値を生み出す力
- 04 恐れず挑戦する力 目標達成のために何をすべきか自分で考え、失敗を恐れずにトライアル&エラーする力
- 05 自ら知識を得る力 トライアル&エラーする中で見えてきた、自分に足りない知識を自ら積極的に獲得する力

本校の取り組みや成果を調査し、現状評価できる点や問題点、今後の方策を導き出し、継続的に組織的な改善・改革に取り組んで参ります。

<教育の目標と重点>

・平成29年度の重点目標

クリエイティブ人材の育成	クリエイティブな機会の創出
実践的スキルの育成	社会で実際に役立つスキルを、アクティブラーニングで培う
芸術的感性の高揚	芸術鑑賞及び図書の充実

平成29年度に開校。「クリエイティブ人材の育成」を掲げている。従来の詰め込み型の教育・校則ありきの指導といった形態を見直し、少人数を個別で指導しながらより実践的に「考える」そして「創出する」ことを教育の根幹におく。

主には通常授業の中に、人とのコミュニケーションの中で自分を客観視し、今の自分がすべきことを自身で考え、新しい価値を生み出すためのカリキュラムを設定している。

・具体的な取り組みについて

クリエイティブ人材の育成	クリエイティブなカリキュラムの設定— Adobe Maxへの参加 ほか
実践的スキルの育成	実践的カリキュラムの設定—セルフブランディングカリキュラム
芸術的感性の高揚	芸術鑑賞 —オペラ『ラ・ボエーム』鑑賞/ 大相撲観戦 / すみだ北斎美術館・江戸東京博物館

・教員/生徒/保護者への浸透度

「MIICAで育む5つの力」のため、習得のために画一的な手法を選択せず、保護者・教員ともMIICAの学校理念のもと、協力して指導を行った。MIICAならではの教育を、生徒・保護者共にご理解いただいている。まさに「保護者も通いたくなるような」学校であることが、本校の自負である。教員の各個人もまたその自負を持ち「アクティブ・ラーニング」の実践に主軸を据え、生徒の習熟度に応じて適宜カリキュラムを調整しながら指導を行っている。

この三者の共通意識は、「面白いコトをしたい」という思い、である。学校という枠組みで人が出会い、立場に関係なくアライアンスを組み、常に新しく面白いコトを、実践し発信し続ける集団が「MIICA」とであると認識している。

<教育環境>

- ・校舎改修工事の第二フェーズ（＝クラスルーム2,クラスルーム3およびShareRoomの改修）を実施
- ・生徒/教員用 wi-fi環境の整備
- ・生徒1人につき1台、Macbook Proを教材として導入
- ・教員用作業機の設置
- ・男子ロッカールーム、女子ロッカールームの導入

<教育課程>

- ・カリキュラムの特色化と適切性

変わり続ける世界の中で、いま必要とされるのは「大学受験のためだけの勉強」ではなく「変わり続ける世の中に対応しうるチカラ」をもつことである。本校では、知識偏重型の教育を廃し、新しい時代の教育ニーズに応えるべく、自己表現し自ら未来を切り拓いていく人材となるべきカリキュラムを独自に設定している。

具体的には、自分の考えを他者に対して表現する「ヒューマン・コミュニケーション学」や、自分の考えた企画の実現やマネジメント、総合プロデュース力を培う「企画立案・プロデュース学」、デジタルな情報発信スキル/リテラシーを培う「デジタル情報発信学」など、“クリエイティブ”に生き、自分自身を最大限に表現していくためのスキルを身につける授業科目がある。他にも、学校法人 日本芸術学園の40年にわたる芸術・芸能教育の強みを生かし、芸術表現（演技/音楽/ダンス/ビジュアル・アーツ/伝統芸能）を多岐にわたり学習している。また、その根幹にある“教養”を、リベラル・アーツや実用英語、メディアエンターテインメント学により学ぶ。

本校のカリキュラムの特色は、クリエイティブ人材を輩出するためのカリキュラムに特化させていることにある。

- ・教育システム全体の工夫と充実度

1年間のカリキュラムを5クールに分け、生徒の習熟度を測りながら柔軟に設定している。

都度、学校行事活動や外部講師の講演などを取り入れ、社会と関わる流動的な機会を、定期的に確保している。

- ・行事活動

芸術鑑賞会『ラ・ボエーム』の鑑賞や相撲観戦など、ややターゲットが年齢層高めの芸術作品を鑑賞した。それらは、現在若者へ足を運んでもらうべく、様々な企画がなされているため”その企画をターゲットされている側”としても体験した。また、Adobe Maxへ参加し、事前の作品投稿および当日のセッションへの参加を行った。

<教科指導>

- ・指導計画

MIICAのカリキュラム自体は、博報堂プロダクツの協力のもと設計・ブランディングを行い、実施している。カリキュラム以外の部分における生徒への指導についても、MIICAのコンセプトに沿って”考える機会を設け、教員も共に考えること”を主軸に置いている。

- ・成績評価および授業評価

成績評価_成績評価を細分化し、平常点を「MIICAで育む5つの力」に基づき数値化している。

授業評価_現場経験のある講師を採用し、“実践”に重きを置いて指導を行っている。今後は、教科を一層ハイブリッド化し、教科間での連携を強めていく。

<生徒の活動>

・生徒の活動

生徒は、授業での活動のほか、放課後にカラオケマシンを使いボーカルの練習をしたり、ダンスをしながら動画を撮影したり、小説を書いたり絵を描いたり、思い思いに創作・表現活動に励んでいる。

今後はその作品の発表機会も多く設けていく。

・部活動について

本校生徒の活動においては、企画を立てたり、イベントを製作したり、個人/イベント単位での活動が多いため実施していない。今後、生徒の興味や希望に合わせて実施していく。

<進路指導>

・進路相談の充実

1年次 カリキュラムによる学習の充実

2年次 社会との関わりを活発に持ち、ビジョンを明確化する

3年次 進路を実際的に考え、行動に起こす

1年次は『目標設定・実行学』にて、ビジョンを明確化するべく必要なことや、スケジューリングについて学習。かつ、授業の全ジャンルにおいて、時代がいま求められているもの、現在のクリエイティブに関わる作品や制作に関して学習し、知見を広げることに注力した。

<安全および危機管理>

・緊急時の対応/防災チェック体制

『安全対策マニュアル』を作成し、緊急時に育てた。また、翌年度に避難訓練を実施する計画を策定した。

・情報セキュリティ

教職員が使用するコンピュータ自体を、Macbookへ移行。

Windowsコンピュータには、ウィルス対策ソフトをダウンロードし、対策を行った。

<平成30年度 重点目標>

・外部講師を招き、講演やワークショップを実施

・舞台設備や教室等の改修（第3フェーズ）

・生徒による創作活動の活性化